

荷待ち時間実態調査結果

【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(1/7)

調査概要

- 調査目的：、トラック事業者における待機時間及び荷役作業について実態を把握し、トラック事業における取引慣行の改善や労働時間短縮のための対策検討に向けてデータ収集するための調査を実施する。
- 調査対象者：トラック輸送事業者。
- 調査方法：郵送（4,000事業者）による調査依頼、電子メールによる調査依頼1,500事業者。回答は郵送及びWEB画面に入力する方法により実施。
- 集計対象事業者：全体の回答者数（1,463サンプル）のうち、輸送品目として建設資材に関する品目は積込み時の附帯作業のサンプル数79、納品時48サンプル。
- 調査期間：令和2年2月1日～同年2月28日

調査項目

結果概要

待機時間の発生状況

- 積込時：荷待ち時間は、「加工事業場・倉庫」、「卸・商社、建材店等の倉庫」、「建設資材メーカーの工場・倉庫」の3箇所は、土木工事現場、建築工事現場よりも長時間となっている。
- 荷卸時：荷待ち時間は、平均時間・最長時間ともに「建設資材メーカーの工場・倉庫」が最も長く、続いてハウスメーカーの工場・倉庫となっている。

待機時間料金の収受状況

- 積込時：建設資材メーカーでは待機時間が長いですが、待機料金が収受できていないサンプル数が最も多い。
- 荷卸時：建築工事現場（集合住宅、事業用不動産等）では条件により収受（一定の時間以上の場合）できているサンプル数が多く、収受できる傾向にある。

附帯作業の問題点

- 待機発生場所別に改善取組み状況を考察すると、積込時に改善を「実施した」とする比率は全体的に低調である。待機発生事例が多い建設資材メーカーの工場・倉庫では取組比率が低い。また、荷卸時は待機発生の問題を抱える工事現場での改善の実施率は低い水準である。

【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(2/7)

- 積込時：荷待ち時間は、「加工事業場・倉庫」、「卸・商社、建材店等の倉庫」、「建設資材メーカーの工場・倉庫」の3箇所は、土木工事現場、建築工事現場よりも長時間となっている。

積込

期間: 12/16~12/31

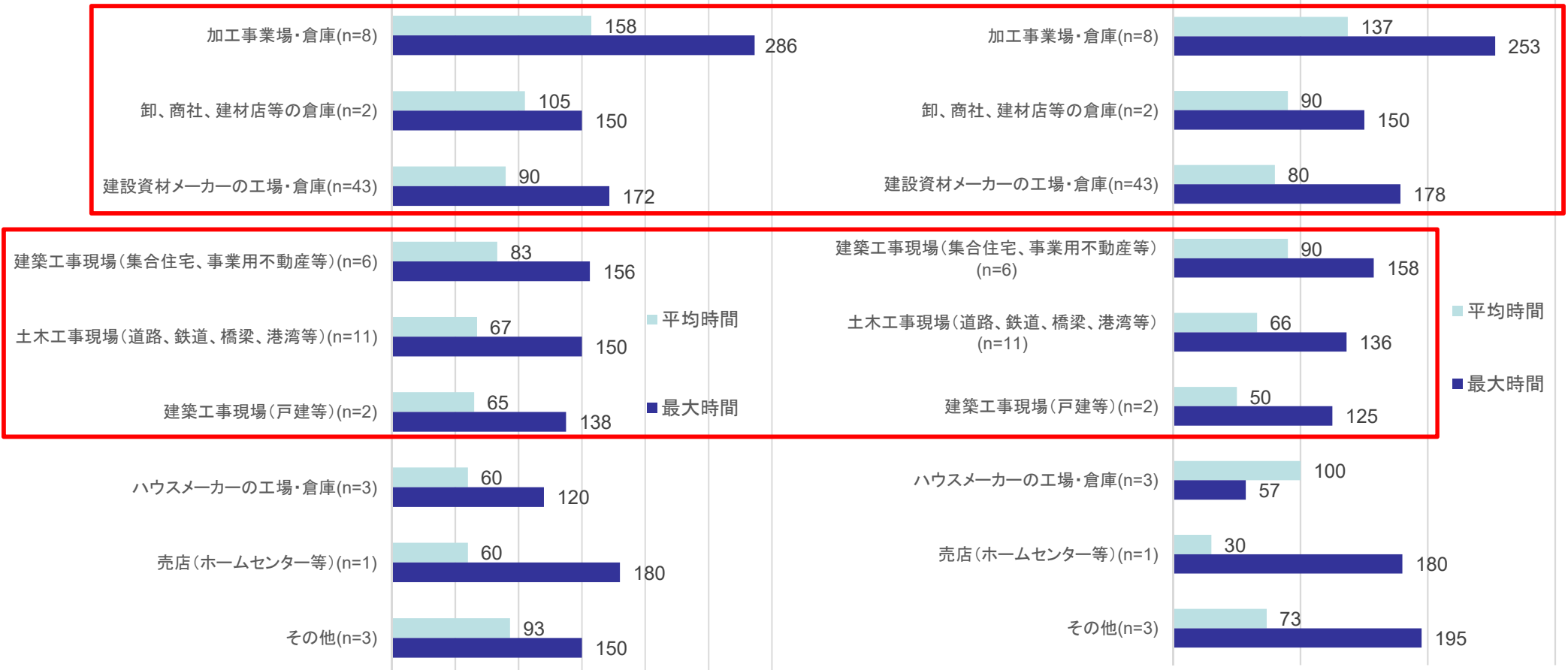
(n=79)

期間: 1/16~1/31

(n=79)

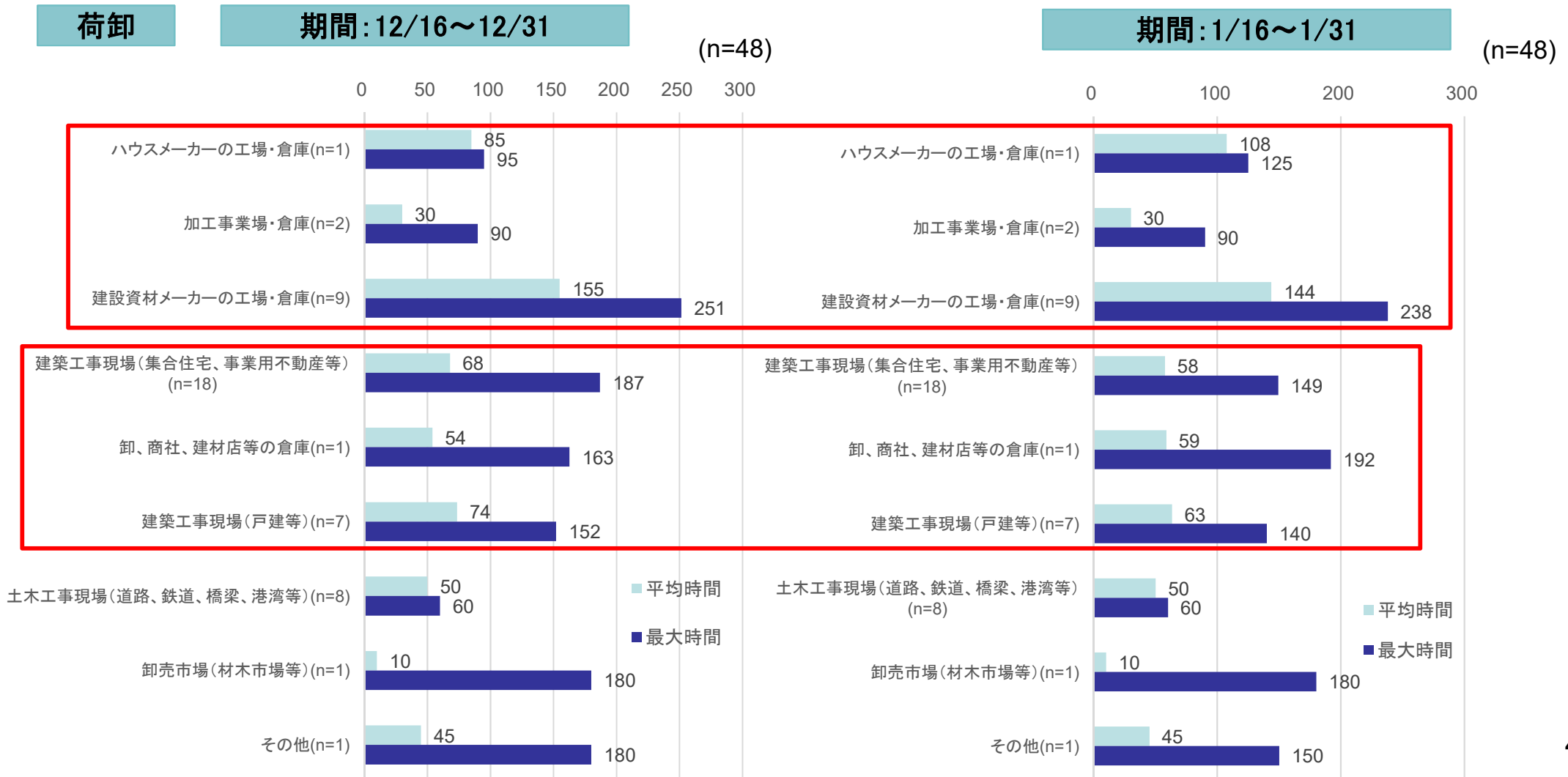
0 50 100 150 200 250 300

0 100 200 300



【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(3/7)

- 荷卸時：荷待ち時間は、平均時間・最長時間ともに「建設資材メーカーの工場・倉庫」が最も長く、続いてハウスメーカーの工場・倉庫となっている。



【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(4/7)

- 積込時：建設資材メーカーでは待機時間が長いが、待機料金が収受できていないサンプル数が最も多い。
- 荷卸時：建築工事現場（集合住宅、事業用不動産等）では条件により収受（一定の時間以上の場合）できているサンプル数が多く、収受できる傾向にある。

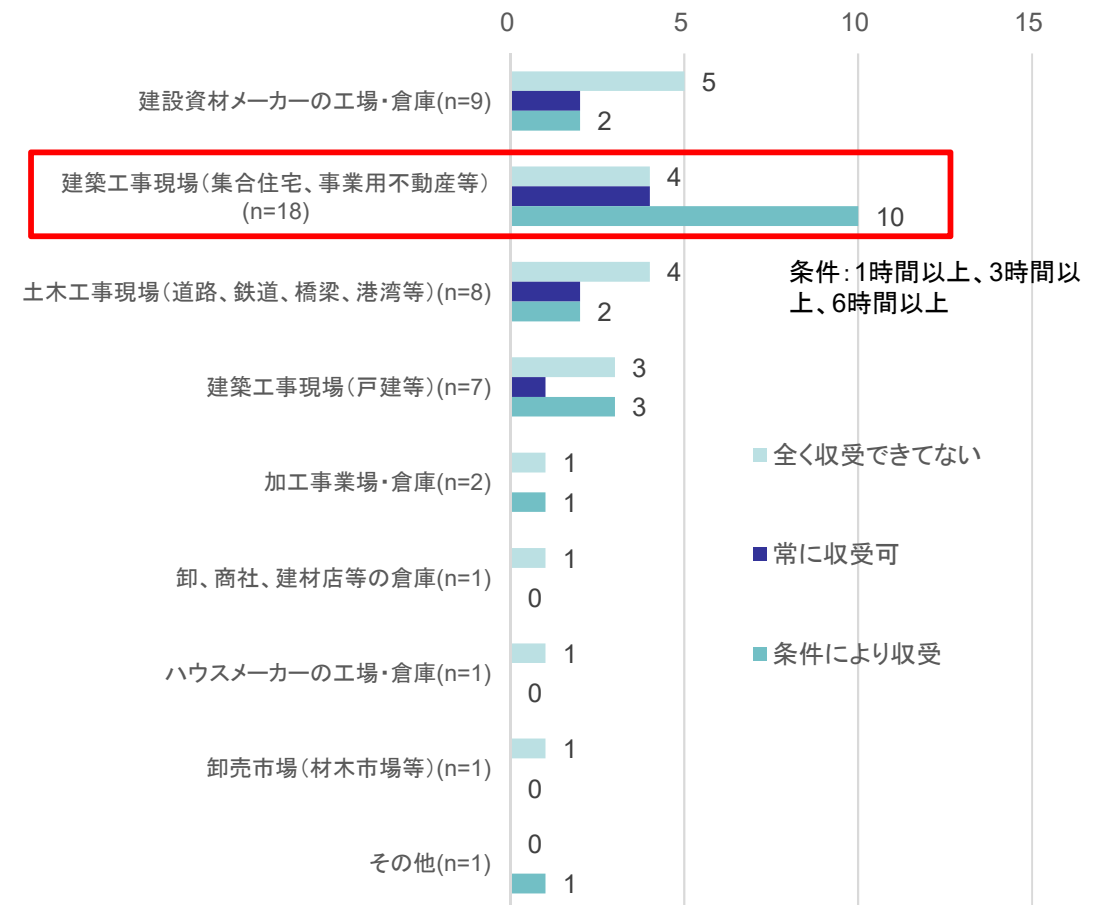
積込時：待機時間料金の収受状況

(n=79)



荷卸：待機時間料金の収受状況

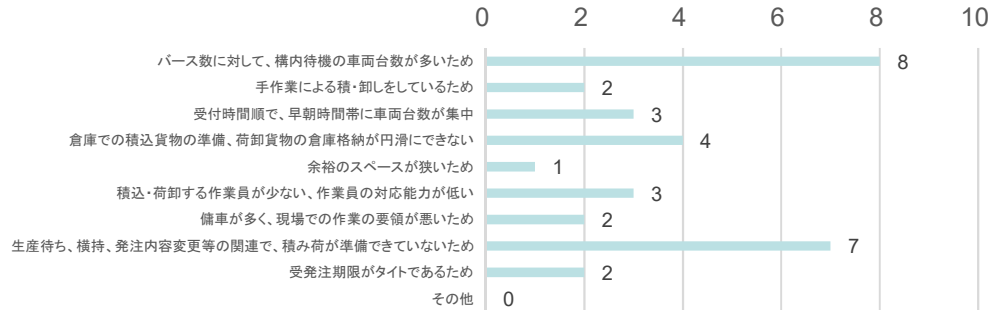
(n=48)



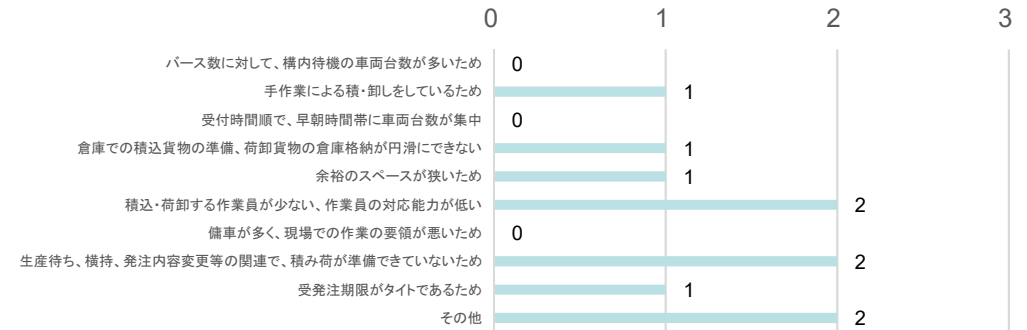
【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(5/7)

積込時：待機時間発生原因に関する問題等

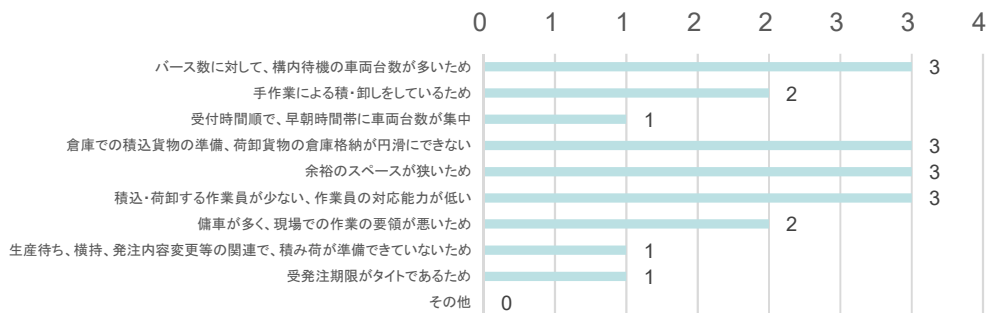
建設資材メーカーの工場・倉庫(n=32)



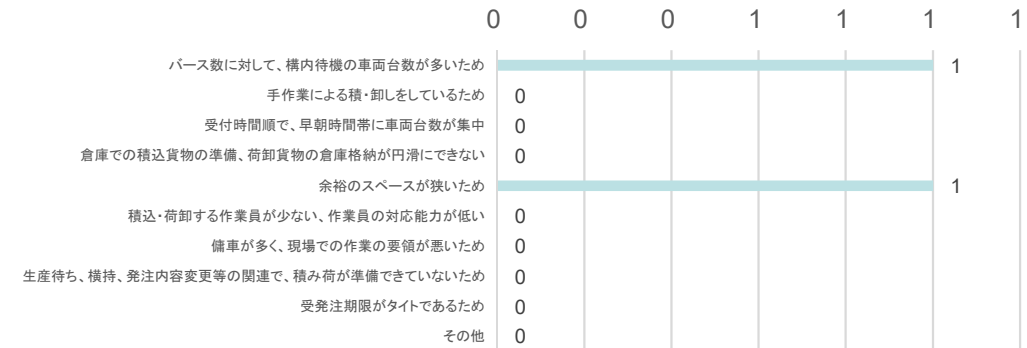
土木工事現場(道路、鉄道、橋梁、港湾等)(n=10)



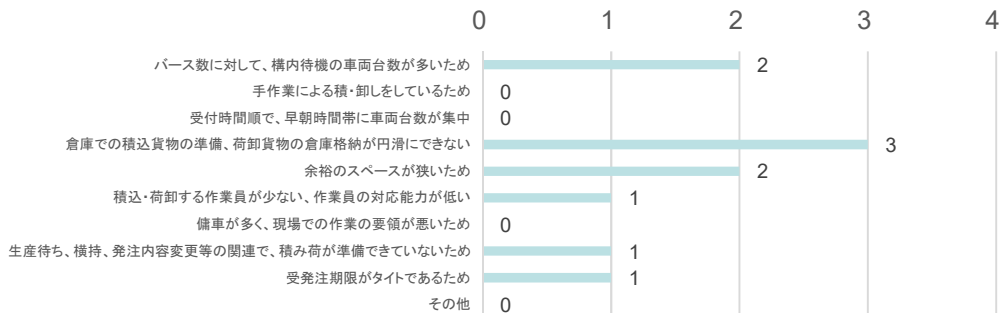
建築工事現場(集合住宅、事業用不動産等)(n=19)



売店(ホームセンター等)(n=2)



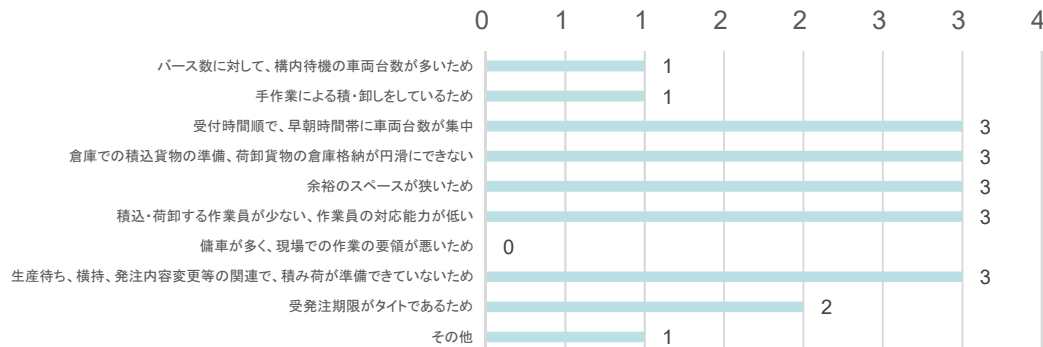
加工事業場・倉庫(n=10)



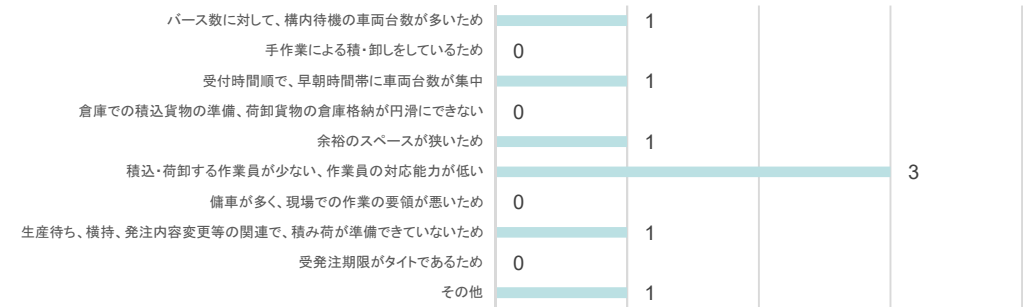
【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(6/7)

荷卸時：待機時間発生原因に関する問題等

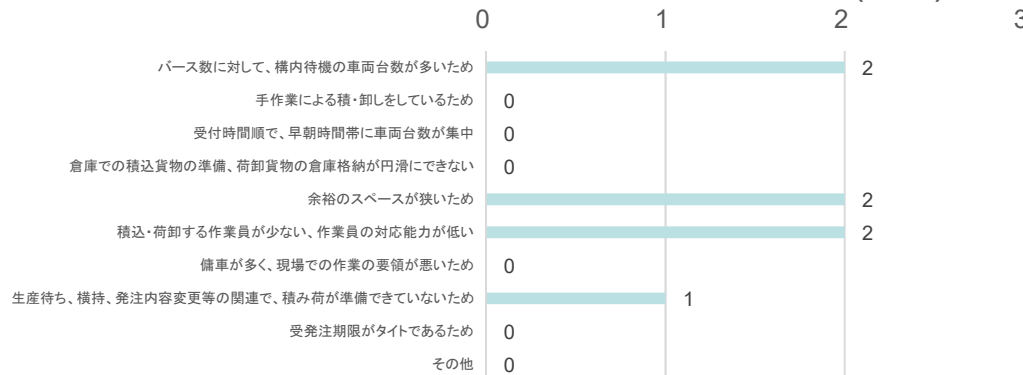
建築工事現場(集合住宅、事業用不動産等)(n=20)



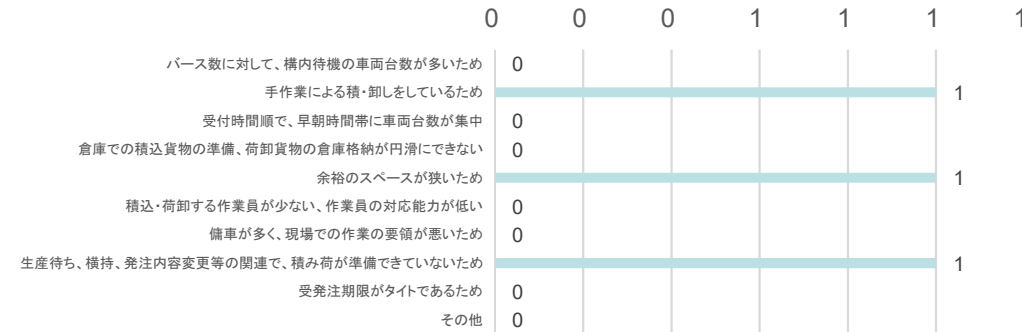
建設資材メーカーの工場・倉庫(n=8)



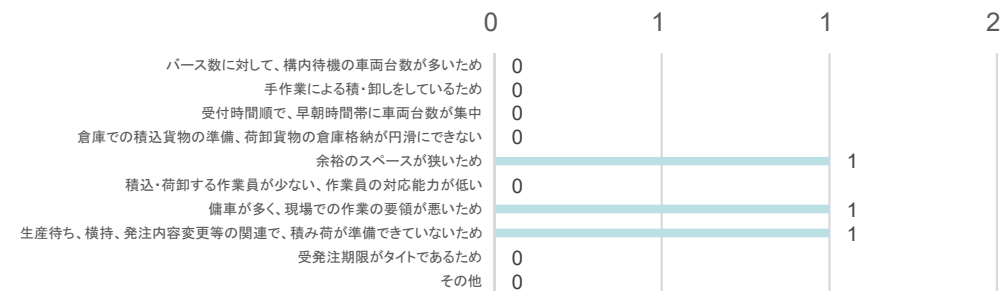
土木工事現場(道路、鉄道、橋梁、港湾等)(n=7)



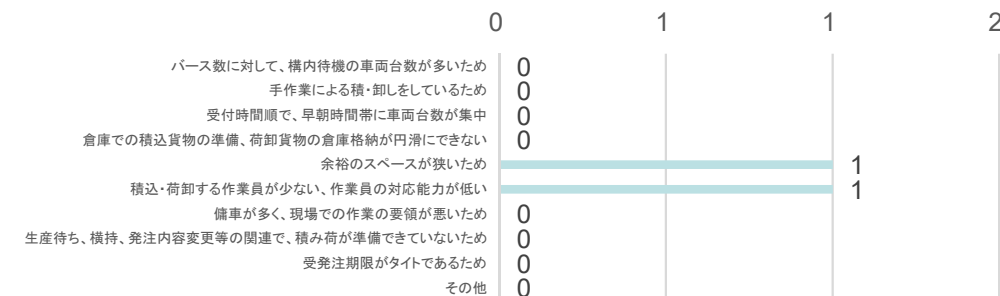
卸、商社、建材店等の倉庫(n=3)



建築工事現場(戸建等)(n=3)



加工事業場・倉庫(n=2)

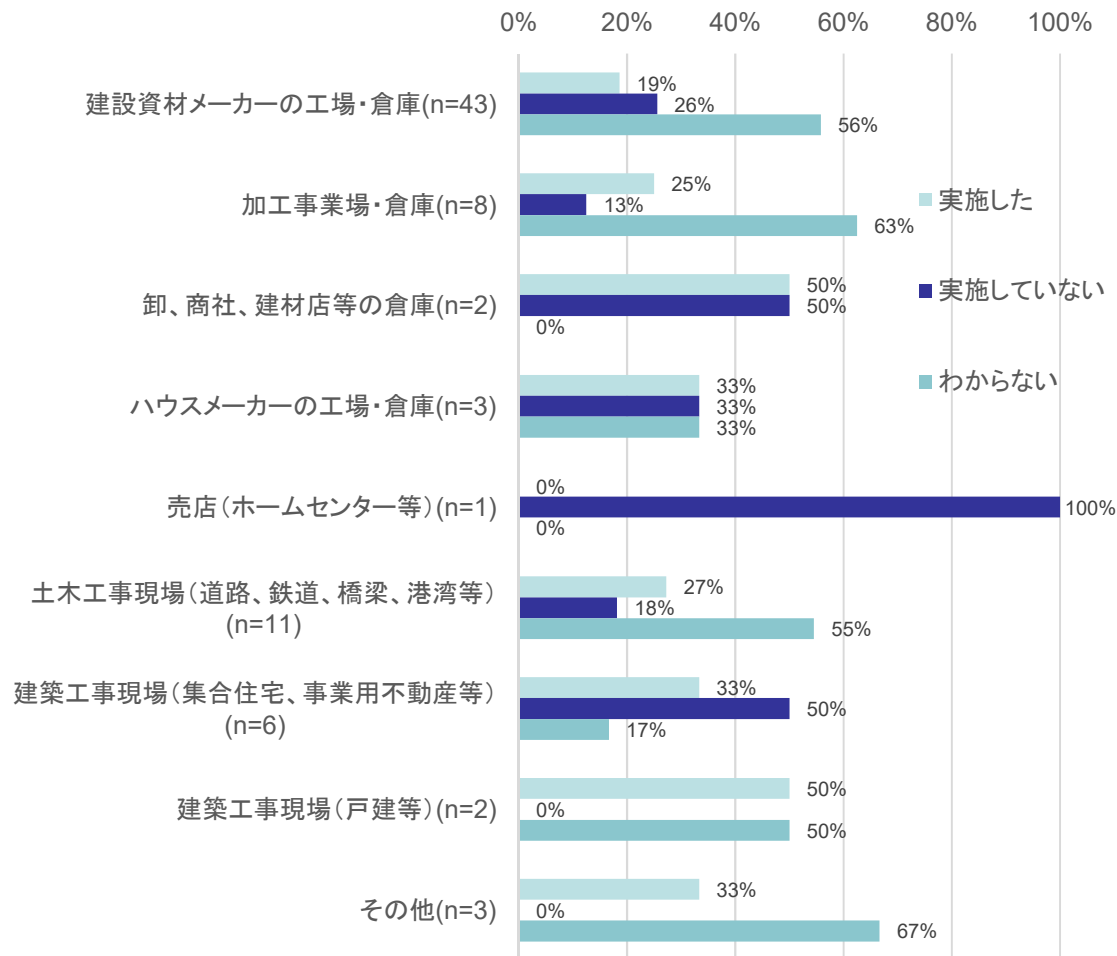


【実態調査】待機時間に関する実態調査報告【対トラック運送事業者】(7/7)

- 待機発生場所別に改善取り組み状況を考察すると、積込時に改善を「実施した」とする比率は全体的に低調である。待機発生事例が多い建設資材メーカーの工場・倉庫では取組比率が低い。また、荷卸時は待機発生の問題を抱える工事現場での改善の実施率は低い水準である。

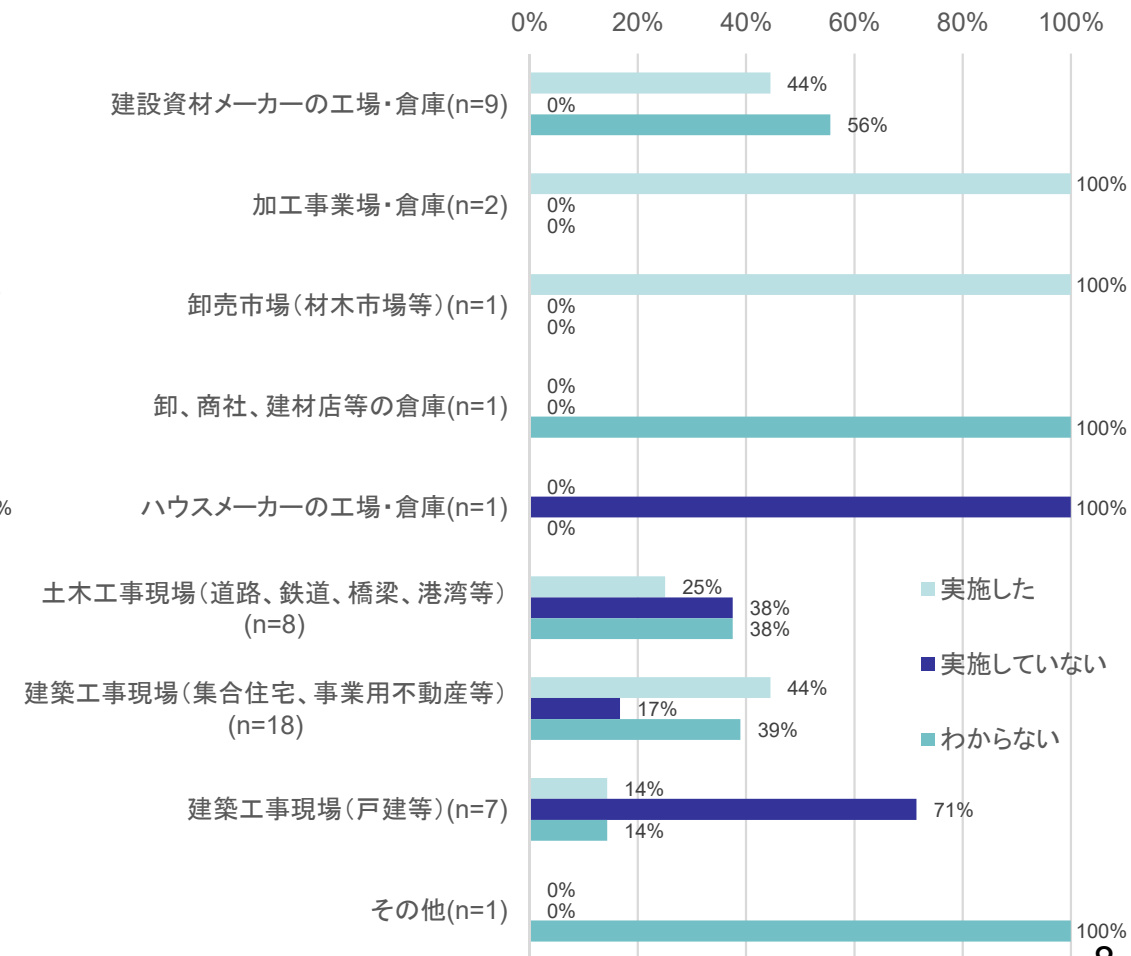
積込時：荷待ち改善に向けた取組状況

(n=79)



荷卸時：待機時間発生原因に関する問題等

(n=48)



※各待機場所の比率が100%となるように比率を算出。